

みんな笑顔で あったかす

みんなの議会

2010
11

9月定例会号



第10回鷹栖こどもの絵本まつり

絵本の読み聞かせコーナーでは、大人も子どもも聞き入り、親子で1日を楽しんでいました。(9月26日 メモリアルパーク)

■第3回定例会 ■議会報特別委員会視察報告 ■わたしの一言

町民の皆さんと議会をつなぐ議会報を目指して

No.140

発行：鷹栖町議会

編集：議会報特別委員会

第3回定例会

第3回定例会は、9月13日から3日間の会期をもって開催しました。議長の行動報告と町長の主要な動静についての行政報告を受けたあと、4人の議員が一般質問を行い、町長・教育長の考えをたどりました。議事は、報告、条例制定および補正予算を審議し、原案のとおり可決。平成21年度各会計決算について審議を行い認定しました。人事案件では、教育委員会委員の選任・人権擁護委員の推薦に同意しました。また、議会報特別委員会の所管事務調査報告の後、意見書2件について採択し、会期を1日残り閉会しました。

一般質問

4人の議員が町政を問う

■近藤 義紀 議員 ■坂根 玲子 議員
■新田 健一 議員 ■植西 辰義 議員 (掲載順)

① 「オオカミの桃」増産の取り組みは

町の特産品である「オオカミの桃」の生産は、毎年減り続けており、その要因は原料トマトの生産減によるものです。

今年の生産量は昨年を下回るのは決定的であると聞かされましたが、今年度から取り組んだ「10tプロジェクト」による成果を伺います。

次年度に向け、原料トマトの作付け拡大をどのように考えているのか、農業者から要望の多いトマトの接木苗導入に対する助成も含めて、町の農業振興と特産品を守り育てていく観点から伺います。



近藤 義紀議員



原料トマトの接木苗

増産に向けたプロジェクトに期待
【助安町長】

「10tプロジェクト」は、原料トマトの反収を7tから10tへ増産することを目標に、普及センター・JAたいせつ・JAあさひかわ・農業振興公社・町が今年度から立ち上げたものです。ほ場の巡回や現地講習会を行って、増産へ向けた技術指導を行っています。その効果については今後の検証、評価を待つところで

す。接木苗に対しての助成も対応策のひとつと考えます。平成20・21年度に実施した事業をさらに今年度まで延長しましたが、関係者の意見を聞きながら早めに向向性を出して、皆さまにお知らせしたいと思います。

② 高齢者事業団への対応を再度問う

高齢者事業団への補助金について伺います。

今年度の補助金交付決定書では、補助事業等に要する経費は2,201万8,000円で、補助対象経費は141万6,240円とあり、その内容は、事務局人件費相当額として、100万円を補助金の上限とすると記されていますが、その支払い方法の根拠について伺います。

次に、繰越金の限度額については第2回定例会でもお聞きしましたが、町長は総事業費の10%云々と答弁されました。平成21年度の事業費は、運営管理費を合わせた決算額で約2,933万円です。その10%とすると、事業団の余剰金はそれより少なく、次年度の運営を考えると十分な金額ではありませんが、町長はどのように考えていますか。

3点目、事業団の事務経費は事業費の5%としていきます。町長は第2回定例会の答弁で、経費が掛かるようなら事務費の引き上げをして、事業団の運営をしてはどうかと答弁しました。

しかし現在、景気低迷が続く中で業務依頼者に負担増を求めることはできないと考えますが、町長の見解を再び伺います。



補助金交付の 規則を順守する 【助安町長】

高齢者事業団への100万円の補助金は、概算払いと精算払いで支払いしています。

精算払いの根拠については「鷹栖町補助金等交付規則」第5条に補助金等の交付の条件として、「町長は（中略）その補助事業者等に相当の収益が生ずると認められる場合は（中略）その交付した補助金等の全部、又は一部に相当する金額を町に納付すべき事を条件に付することができる。」ことになっていきます。また「指令書」にも、補助金等の交付の目的に反しない場合に限り精算払いをすることができますと記載されています。

事務局長の人件費分の収益を計上できない場合、町の補助が必要であり、十分な収益を上げた場合には精算払いをするということ为目的に反しないと考えます。次に繰越金の限度額については、事業費の10%という取り扱いはなく、原則として繰越金はあまり発生しないものと考えています。また、次年度への運営資金の確保については一時的未払金で対応し、概算払いの方法等で当面の運営資金の問題は解決できるものと思えます。

最後に事業費5%については、高齢者事業団が「鷹栖町高齢者事業団配分規則」第4条に基づいて、自ら決定していただくものですか、事務費の値上げの是非について、私が意見を述べた立場ではありません。

鷹栖町振興補助金の推進を図るには ／社会教育車の運行制限の見直しを



坂根 玲子議員

鷹栖町振興補助金の事業執行率は50%に達していません。その理由は、町民にとって分かりづらく、利用しづらいことではないかと考えます。

特に自主活動支援事業の中の「研修事業」は対象人数に上限があり、個人または5人以内の団体となっているため、大人数での研修は補助対象外となり利用できません。町民の自主的な活動を推進していくため、どのように考えているのか、町長に伺います。

また、※社会教育車の利用については、1日の走行距離制限が150kmであるため、運行制限が厳しく、それ以上の遠隔地には行け

ない状況です。

近隣町村では1日の走行距離制限が300km、または制限なしの町がありますし、また、宿泊を伴う運行実績の町もあります。

協働のまちづくりを進める中で、研修事業は地域づくり、またはリーダー養成につながる大切な事業だと考えますので、1日の走行距離、宿泊も含め検討すべきだと思いますが、教育長の考えを伺います。

※社会教育車：メロディー号、そよかぜ号、教育活動車（オカミの桃が車体に書かれているもの）の3台で、社会教育・社会体育活動、公民館活動、学校教育活動、社会福祉活動等に使われている。

利用しやすいように
改善を検討
【助安町長】

振興補助金事業は「広報たかす」で紹介をし、利用促進を図っていますが、公益性や振興補助金の趣旨に沿った事業内容を求めていますので、利用しづらいと感じることもあるかと思っています。

過去においても随時改善を図ってきていますし、さらに内部で利用しやすいよう、改善を検討していきたいと思っています。



車輛全体についての
運行の検証が必要
【山口教育長】

教育委員会で管理する車輛は、社会教育車・スクールバス・給食車の全体で運行計画を作成しています。距離が延びることによって帰りが遅くなると、スクールの早便・遅便に対する運転手の確保などの問題が出てくると思います。今後、車輛全体の運行について検証しなければならぬと考えています。



社会教育車

① 農業振興公社は役割を果たしているか



新田 健一議員

現在、農業者は安定経営のため、水稻を主体にそ菜も取り入れており、オオカミの桃の製造・販売と野菜の集出荷施設を運営する農業振興公社の役割は大変大きいと考えています。

しかし、オオカミの桃の加工場は70万本の生産能力がありながら、平成21年は38万本しか生産していません。これは原料トマトの買入れ価格が低いため、キュウリや採種作物と比較すると収入が少ないのが原因のひとつと考えられます。

**危機感を持つて
協議を進めている**

【助安町長】

「オオカミの桃」については、危機感を持つて関係機関と協議を進めているところですが。

過去に60万本の生産実績がありました。近年は減少しています。一気に増産することは不可能ですが、総合的な対応策が必要だと考えています。

接木苗の助成措置や10tプロジェクトなどのほか、生産拡大に向けた対応策を農業者が平成23年度の営農計画を立てる時期までに提示したいと思っています。

② 転作飼料作物への交付金激減、 その対応は

本年度から始まった水田の転作作物に対する交付金の形が変更となり、町内で作付されている500haの飼料作物に支払われる交付金が激減し、町内でも管理のできない農地が出てくる恐れがあります。

近隣の自治体の中には速やかに支援策を打ち出した町もあります。

町内では地域の農業を守っていく考えから、各地域ごとに中山間制度等で支援体制を決めた所もあります。

町長は第1回定例会の答弁で「国の動向を注視しながら本町で取り組める最善のものをつかむとともに、農業団体等と一体になって取り組んでいきたい。今、準備を進めている」と答えました。しかし、いまだに何も示されていません。早急に対応策を打ち出すべきと思いますが、町長の考えを伺います。

**国や道の施策を
見極め検討したい**

【助安町長】

飼料作物については、水田の利活用自給力向上事業分と激変緩和調整枠により、昨年までの産地確立交付金と大体同水準になると見込まれています。

ただし、昨年まで取り組んでいた耕畜連携事業については、戸別所得補償のモデル事業の実施に伴って事業内容が変更され、本町の取り組みが困難となりました。

今後の国や道の農業施策を見極めながら、魅力ある農業の実現に向けて、努力したいと考えています。



牧草ロール

① 特定健康診査受診率や がん検診受診率の向上対策は



植西 辰義議員

平成20年4月からの医療制度改革によって、40歳〜74歳までの人を対象にした特定健康診査(メタボ検診)や特定保健指導の実施が義務付けられました。平成24年度までに受診率の目標が65%、特定保健指導は、実施率45%の目標が示されています。

がん検診は平成23年度までに受診率を50%以上の目標を設定しています。

町民の命と健康を守り、生活習慣病の改善を支援することが医療費の削減にもつながります。受診率向上に向けての取り組みを伺います。

被保険者の 利便性に配慮

【助安町長】

特定健診の受診率は、平成20年度は目標40%に対して、45・97%、21年度は目標45%に対して45・31%の受診率でした。22年度は8月末現在で31・7%であり、今後伸びてくると予想しますが、厳しい状態と思いません。

特定保健指導については、20年度は3人、21年度は1人であり、このことが一番の課題と思っています。

健診機関は、浅井医院や旭川厚生病院に委託している5地区の住民センターの健診をはじめ、旭川がんセ

ンター、旭川医師会と契約を行い、被保険者の利便性に配慮して選択できるように実施しています。

受診内容については、特定健康診査の基本項目のほかに町単独として、尿酸・肝機能検査・エキノコックス症検査などを加えています。さらに胃・肺・大腸・前立腺のがん検診なども併せて受診できるように実施しています。

医療費の自己負担の増加を抑制するために生涯元気を推進研究会などの活動を通じて、今後も町民の方と協働し、健康の自己管理の定着を図りたいと考えています。



検診の様子

②子宮頸がん予防ワクチン接種の助成と 性感染症の予防教育は

子宮頸がんは近年、20〜30代までの女性に急増しており、厚生労働省は平成21年9月に予防ワクチンを認可しましたが、3回の接種が必要で、費用は約5万円と高価であるために普及が遅れています。

同省は平成23年度の予算に150億円の概算要求をし、道も助成の検討を表明しています。

ワクチン接種費用の助成に取り組むことで、子育て世代の経済的支援や母体の健康を守り少子化対策にもつながります。助成について町長の考えを伺います。

予防ワクチンは早い時期の接種の方が効果が大きいために、子どもたちに性感染症の予防を教える必要があると思います。ワクチンを接種するリスクも含め、子どもたちや保護者に対して情報提供をすべきと思いますが、教育長の考えを伺います。

国や道の動向を

見ながら検討 【助安町長】

子宮頸がん予防ワクチン接種については、国や道が前向きに進めていますので、その動向を見ながら町の財政も含めて検討したいと考えています。

しかし、接種しても万全とは言い切れない部分もありますので、いろいろな情報を集めながら判断をしたいと考えています。

指導や学習を

さらに強化 【山口教育長】

性教育については現在、小学校の各学年で2時間行っており、6年生には性被害の実態やエイズなど性の病気を教えています。

中学校の保健授業では、性機能の成熟・体の仕組み・異性のかかわり・性情報への対処などについて、3年間を通して学び、特に3年生については、性感染症の予防やエイズについて多く学んでいます。

子宮頸がんの集団予防接種については、ワクチンの発売から間もなく、現在、情報が不足しており、養護教諭等が説明責任を果たすことはできないと思います。保護者の皆さんが医師に説明をしてもらい、納得をして接種をしていただくことが望ましいと考えています。性に関する情報が氾濫していますので、正しい形で性感染症に対する指導や学び方について、さらに強めていきたいと考えています。

議会報特別委員会視察報告

大空町議会広報編集特別委員会

■調査概要・内容

大空町は、平成18年に旧女満別町と旧東藻琴村が合併し新しく誕生した、人口8,217人・世帯数3,140戸の町です。議会広報誌「おおぞらぎかい」は、平成18年に道町村議会広報コンクールに入選された実績があり、編集は議会事務局が原案を作成し、紙面内容などは議会広報編集特別委員会で協議している。

■委員会所見

町村合併を施行して間もない中で、住民に迅速かつ的確に議会の情報を伝えるために、読みやすい紙面づくりを心がけている。また、編集方針・編集基準を制定して運用することで、編集委員が交代しても広報誌の紙面づくりが一貫することなどを参考にして議会情報の発信に努力したい。



大空町視察

佐呂間町健康づくりマイレージ事業

■調査概要・内容

佐呂間町は、オホーツク海側の人口5,973人・世帯数2,484戸の町です。町民が自分の健康づくりに興味を抱き、健康づくり関連事業に参加することでポイントが貯まり景品と交換できるマイレージ事業「サロマゲンキマイレージ」に今年度より取り組んでいる。長期的には国民健康保険医療費・介護保険給付費の抑制を目指している。

■委員会所見

楽しみながら健康への関心を持ってもらうことも大いに必要だと感じた。本町においても、健康・福祉だけではなく、いろいろな事業でアイデアを出し合いながら、町民が住み続けたいと思うようなまちづくりを進めていかなければならないと感じた。

平成21年度 一般会計歳出決算額 48億2,825万円認定 《前年比3億3,513万円減》

実質公債費比率
(町の借入金比率)は15.6%に改善
《前年比マイナス0.9%》

■決算認定

平成21年度一般会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、老人保健特別会計、介護保険特別会計、公共下水道事業特別会計、上川支庁管内町村公平委員会特別会計、水道事業特別会計の決算について説明を受け、監査委員の意見報告の後、内容審議の結果、全会計について認定しました。なお、各会計の決算額は「広報たかす11月号」に掲載されています。

■定住自立圏の形成に関する協定の締結

旭川市を中心市とする「定住自立圏の形成」に関する協定の内容について議決しました。なお、協定は10月1日に締結されています。

取組みの内容

- 【医療】 二次救急医療の連携、小児救急医療の連携
- 【福祉】 こども緊急さぼねっと事業の推進、障害者相談事業、消費生活相談事業
- 【教育】 高校・専門学校・大学における自治体連携、不登校児童生徒の受入機関の共同利用、図書館相互のネットワーク化
- 【その他】 水道施設の共同使用、広域下水道施設の共同使用、消防防災体制の整備、公共施設の相互利用の促進、大雪山国立公園の世界自然遺産への登録活動事業、森林環境を活用した事業、地場産品発掘普及事業、移住定住の促進、職員の相互人事交流

一般質問の後、4件の報告事項、平成21年度の各会計決算認定を含む15件の議案2件の意見書などを審議し、原案のとおり議決しました。

■報告

〔平成21事業年度 株式会社鷹栖町農業振興公社の決算及び
平成22事業年度の事業計画〕

〔平成21年度 鷹栖町健全化判断比率※〕

〔平成21年度 鷹栖町公営企業の資金不足比率※〕

〔平成21年度 鷹栖町教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行状況の点検・評価〕

以上4件の報告を受けました。末尾に※印がある2件は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、毎年議会に報告し、公表することになっています。詳しくは「広報たかす11月号」に決算状況及び判断比率等が掲載されていますので、参考にしてください。



■人 事

【教育委員会委員の選任同意】

任期満了に伴い、次の方の選任に同意しました。

打本 厚史さん（再任）
（南2条1丁目）



【人権擁護委員の推薦同意】

細川 尚さんの後任として、次の方の推薦に同意しました。

斉藤 功さん（新任）
（北野東3条1丁目）



■条 例

【鷹栖町議会の議決すべき事件を定める条例の制定】

定住自立圏形成協定の締結・変更・廃止を求めることの決定を、議会で議決すべきこととする条例を制定しました。

■鷹栖町過疎地域自立促進市町村計画

過疎地域自立促進特別措置法の延長に伴い、町が作成した計画（平成22年度～27年度）について議決しました。

■意見書

【森林・林業政策の早急かつ確実な推進に関する意見書】

【道路の整備に関する意見書】

2件の意見書を採択し、関係行政庁に提出しました。

■補正予算

【一 般 会 計】

主な内容は、庁内OA化運営推進事業の国保連携対応業務委託料（330万5千円）、生産振興対策事業の防除用無人ヘリコプター導入（1,100万円・財源は100%北海道費補助）、エゾシカ被害防止緊急捕獲事業委託料（51万円）、町道舗装補修事業の13号道路劣化診断事業（180万円）、小中学校備品（学校図書）購入事業（200万円・財源は元北成小学校長の故 赤倉 諭様のご親族からのご寄附）などです。

【水道事業会計】

主な内容は、8年に1回の交換が義務付けられているメーター器交換（約450台）にかかる事業費です。



防除用無人ヘリコプター

	補 正 額	補正前の額	補正後の額
一 般	1,736万3千円	45億6,630万7千円	45億8,367万円
(内 訳)			
議 会 費	21万3千円	行政視察研修旅費	
総 務 費	369万円	国保連携対応業務委託料ほか	
民 生 費	43万円	子育て支援セミナー運営事業ほか	
農 林 費	1,184万2千円	農薬ドリフト対策推進事業ほか	
土 木 費	△126万2千円	町道舗装補修事業、作業車購入執行残	
教 育 費	245万円	小中学校備品購入費ほか	
水 道			
資本的支出	1,792万円	計量法に基づくメーター器交換事業	

議会のひしこ

2010.7.2
～9.15

7月

6日 議会報特別委員会視察研修
（大空町・佐呂間町 〓7日）

13日 議会報特別委員会

21日 議会報特別委員会

28日 長野県長野市議会視察来町
総務文教常任委員会

29日 議会運営委員会・
経済福祉常任委員会

町内所管現地調査
町内所管現地調査

8月

17日 議員協議会・議会運営委員会

23日 上川中央都市・町議会
議長定例会議（東川町）

9月

3日 経済福祉常任委員会：第3回定例
会で提案される議案について説

明を受け、内容を審議。

6日 総務文教常任委員会：第3回定例
会で提案される議案について説

明を受け、内容を審議。

8日 議会運営委員会：第3回定例会で
提案される案件や意見書の取り

扱いについて協議し、会期を3
日間と決定。

13日 第3回議会定例会（〓14日）
議会報特別委員会

北成地区に生まれ60年がたち、還暦を迎える年となりました。

自分では、まだまだ若いと思っていきましたが、体が思うようについていなくなってきました。

農業後継者のいない私にとって、今思うことは、いつまで農業ができるのだろう、耕作できなくなった時、この農地はどうなるのだろうということです。

今現在、耕作できない人の農地については、地域の若い人たちが、力を合わせ守ってくれています。

私も、農地の立地条件を少しでも良くしようということで、農地・水・環境保全事業などで、地域の人たちと一丸となって、用排水路、農道などの整備を行っています。

しかし、5年後、10年後、高齢などで離農していく人がかなりいます。そうなった時、地域の若い人たちにも限界がくると思います。

そうなる前に、今から、荒廃地がでないような、何らかの対策をお願いしたいと思います。



今思うこと

石田

保さん
(北門町内会)

再就職

今年あさひかわ農協を退職し、実家で農業をすることになり半年が経ちました。

農家は人付き合いも少なく、のんびり働くつもりが予想に反し消防団に入団や獅子舞、農協青年部などなど、そこそこ面倒なことが多い状況で、何も考えずに農作業を。

近年、農業後継者も増加し、年齢の近い若い輩が増加中。キンパツやヒゲとか見た目ヤンキーっぽいのもいたりで、気楽に仕事をするつもりが意外とそんな人に限って真面目。その真面目さにかなり圧倒され、自分も見習っていかなければならんと思いつつ仕事していると、あっという間に半年が経ち、収穫時期を

迎えてしまった。半年前の自分と変わったところを探してもなかなか見つからない。せいぜい顔が黒くなったことくらいで成長が見られない。

同い年や年下の農業後継者たちの農業の取り組み方は、自分の親の代とは多分違うのだろうと思う。そんな同年代に刺激を受けながら新しい農業を目指し、日々成長していけるよう精進していこうと思います。

上谷勝彦さん
(天満町内会)



第5回臨時会開催のお知らせ 11月25日(木) 午前9時30分～(予定)

【お問い合わせ】TEL 87-2111 議会事務局

あとがき

穏やかな気候の秋も過ぎ、農作物の収穫も順調に終わりましたが、期待とは違う結果に残念な思いをしている方も多いのではないのでしょうか。もうすぐ寒さ厳しい冬を迎えようとしています。が、必ず春は来ます。表紙の子どもたちのような笑顔をなくさないように、私たち大人が努力を積み重ねていかなければならないと思います。

「みんなの議会」140号をお届けします。

今定例会での4人の議員の一般質問や補正予算等と平成21年度各会計決算認定です。

最後に「わたしの一言」にご寄稿くださいました、上谷勝彦さん、石田保さん、ありがとうございました。

編集委員一同